

第1回 徳島市教育振興計画（第2期）策定委員会 議事録（要約）

日 時 平成26年6月3日 13:00～14:40

出席者 28名（委員16名、教育委員会各課長9名、事務局3名）

1 開 会

事務局： 第1回徳島市教育振興計画（第2期）策定委員会を開会いたします。

2 教育長挨拶

教育長： 徳島市教育長挨拶

3 委嘱状及び辞令交付

教育長： 当委員会委員への着任辞令および委嘱状を交付いたします。

4 委員自己紹介

5 事務局自己紹介

6 会長・副会長の選出

互選により、会長にA委員を選出。

会長の指名により、副会長にB委員を選出。

7 会長・副会長の挨拶

8 審 議

会 長： 当委員会および当計画について事務局より説明してください。

事務局： 説明

会 長： 当委員会ならびに当計画について説明いただきました。私をはじめ皆さまも、内容についてご理解いただけたと思います。

本日の会議は、第一回ということもありますので、ただ今の説明に対するご質問や、計画（案）のご意見、委員の皆さま方の「教育」に対する考えを、御発言いただきたいと思います。

C 委員： 今までの5年間の計画は、達成できたのか、そうでないのか。達成度をもっとわかり易くなっているとよいと思う。

D 委員： 教育振興計画の素案は、よくまとまっており、わかりやすい内容となっているが、もっと内容にメリハリがあればよいと思う。

- E 委員： 第2期の素案には、新項目が入っているので、今日的な課題を検討していきたい。
- F 委員： 学校などは、避難所に指定されているが、施設面での改善を検討したい。
- G 委員： 素晴らしい基本理念が、掲載されているが、この基本理念を、学校・地域・PTA等でどのように具現化していくのか、その方策を入れていきたい。
- H 委員： 夢を持てるようなポイントを入れていきたい。英語教育についていうなら、小・中・高そして生涯学習を含めて、体系化したビジョンがほしい。道徳教育についても同様。
- I 委員： 少子化のスピードが思ったより早い。子供が増えるにはどうしたら良いか。
- J 委員： 最近の中学生は幼いと思う。今の子供は、大人の管理下で過ごすことが多く、子供だけで遊んだり、関係作りをすることが少ないことが原因ではないか。もっと、子供が自主性をもてるようになればと思う。
- K 委員： 城ノ内高校のことが、新聞にとりあげられていましたが、その文面に「エース級の先生」という表現があり、高校の教師に、エース級とか格付けがあるのかと疑問に思った。
他の高校との比較はできないが、保護者としては、市立高校は良い学校であると感じている。
- L 委員： 県下の半分の公民館が、公民館主事等などが常駐していない中、徳島の30の公民館は、すべて常駐しておりきちんと機能している。このことは評価に値し、リーダー的な存在としてアピールしていただきたい。
- M 委員： 徳島市教育振興計画（第2期）の素案は、非常に読みやすい。計画とは夢でもあるので「第1章」では、もっとプラス面を書けないか。20ページの「市立高校ならでは」という言葉は分かりにくい。「特別支援教育の充実」の中に「インクルーシブ教育」という文言があるが、障害者権利条約の中では、「包容する教育」という言葉が使われている。できるだけ日本語を使ってほしい。「魅力ある食育の推進」の中に「エコ意識」という文言があるが、「もったいない意識」とかに変えられないか。
「信頼される学校づくりの推進」では、学校（園）施設は、その保有面積の7割以上が建築後25年以上経過しており、老朽化の進捗は深刻な状況という記載がありますが、25年で老朽化とはいかがなものか。
数値で示せるものは、過去と比較しやすいが、そうでない部分は、比較が難しいのではないか。
- N 委員： 英語の略語ですが、ICTに、どこかで説明を入れてほしい。

学校安全教室などは、実施しているので記載したらどうか。

「非行青少年」を、「非行化した青少年」という記載に変えたらどうか。

7ページの「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うもの」の部分は、後の文章との統一を図るため、カギ括弧にいれてはどうか。

O 委員： 小学校を教科担任にし、担任をカウンセラーにしてほしい。カウンセラーは家庭訪問や個人懇談に力を入れてほしい。

教室にカメラを設置して、いつでも親がスマートフォンなどで、見られるようにしてはどうか。

先生において、人との対応など、ロールプレイングで訓練してはどうか。通信(映像)教育で幅広い学習ができるようにしてはどうか。

P 委員： 振興計画が徳島のカンバンになるようにしてはどうか。

特区など、新しい試みが必要ではないか。

小中学校の学力テストは、全国的にそんなに悪くないのに、センター試験の結果を見ると急に下降するのはなぜか。競争力がないのでないか。社会を生き抜く力が減少しているのでは。競争しなさ過ぎて、穏やかな子供が増え、社会の荒波に飲まれてしまう子供が多いのではないか。

24ページに「郷土を誇りに思う心の育成」というのがあるが、徳島出身で活躍しているチームラボの猪子寿之さんのような新しい生き方をしている人を子供たちに教えるのもいいのではないか。

B 委員： 健康教育の視点をもっと入れられないか。

道徳教育について、社会道徳と学校教育の一貫したものを検討できないか。

保健・福祉の領域と連携できないか。

「インクルーシブ教育」とは、良く使われている言葉、きちんとした文部科学省の定義があるので、説明を記載すればよい。

会 長： すべての方から発言いただきましたありがとうございました。

教育振興計画をまとめていくなかで、各部署が横断的に情報交換することになります。みなさんの意見も、何らかの形で反映されることになると考えています。

事務局におきまして、委員各位の御意見を勘案して、今後にかしてください。

本日は、第1回目の会議でもあり、時間も迫っていることから委員各位の所見を述べることで会議を終わりたいと思います。

次に、今後の審議方法について御提案申し上げます。当素案は先程説明があったように、ボリュームがあるものとなっています。よって次回は、計画全体を審議していただくのではなく、「第3章 3信頼される教

育環境の実現」までを議題とし、それ以降を第3回の会議で協議する分割審議としたいのですが、ご賛同いただけますか。

各委員：（異議なし）

9 今後のスケジュール確認

事務局： 会長の提案も踏まえ、今後のスケジュール確認をします。次回以降4回程度開催する予定です。次回は平成26年7月10日を予定しております。また、第3回は、平成26年9月下旬に予定しております。第2回・第3回の審議を踏まえた修正案を10月の第4回の会議で中間取りまとめ案として承認いただき、パブリックコメントの実施による市民から意見を頂く計画案とします。

会長： 以上で会議を終了します。